



第15回 福島 順子 さん

『川の駅 伊豆城山』スタッフ

新しい地で築く繋がり

『川の駅 伊豆城山』のオープニングスタッフである福島さんは、昨年12月に伊豆の国市に引っ越してきたばかりの移住者です。「新しい場所です。新しい繋がりを持ちたい」という思いを持つ福島さんは、求人誌で見た「新しくできる川の駅を、地元の人に愛される場所にしたい」というコンセプトに惹かれてスタッフに応募しました。

移住前までは、東京でご主人・飼犬と暮らしながら、趣味の車中泊で日本中を巡っていました。初めて

伊豆の国市を訪れたのもその旅の中。「20年もさまざまな地を旅してきたので、その多くの選択肢から移住先を決めるのは難しかったです。けれど、伊豆の国市は東京からの距離も、人との距離感も、ちょうど良かったのが決め手となりました。」旅の中で、全国各地の道の駅やイベントをたくさん見てきた福島さんは、この強みを生かして『川の駅 伊豆城山』ならではのイベントを企画しています。また、ペットに関するホリスティックケア・カウンセラーの資格を生かし、ドッグランを訪れる愛犬家たちに、自分と愛犬が培ってきたノウハウを共有したい、とも考えています。

福島さんにとって伊豆の国市は「第二のスタート地点」。「今までの人生は、仕事に追われ、忙しく過ごしてきました。でも、安住の地として選んだ伊豆の国市で、地域に愛される仕事ができるなんて、とてもわくわくしています。」

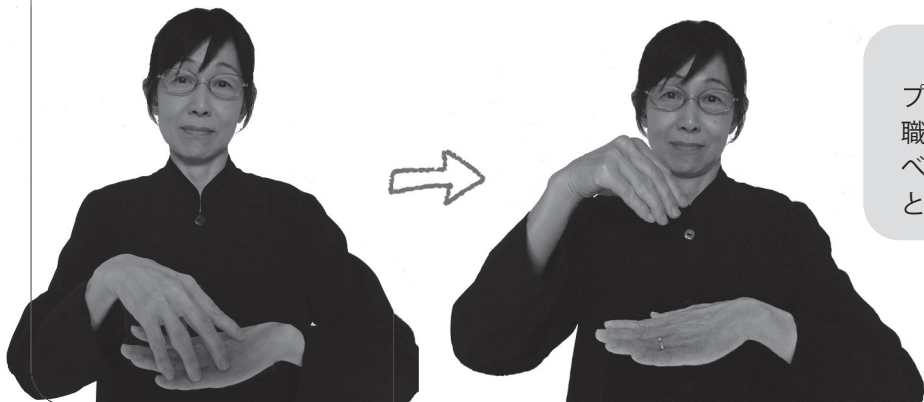
施設だけでなく、そこで働く人たちも魅力あふれる『川の駅 伊豆城山』。自然と温かさ溢れるこの場所が、皆さんにも愛してもらえることを祈っています。

かんたん手話講座④

障がい福祉課
☎ 0558-76-8007 FAX 0558-76-8029

「キャンプ」

左手の甲を上にして、胸の前に置き、その上に右手5指の指先をつけ、上に引き上げながら閉じる。
(左手が地面、右手がテントの形をイメージしています。)



聞こえない仲間と、キャンプで火を囲み、家族のこと、職場のこと、いつまでもしゃべり(手話べり)明かしたことが懐かしいです。



ナイラムダル国際子どもセンター

8月6日から10日までの5日間、伊豆の国市公式訪問団と中学生交流団がモンゴル国を訪問しました。



モンゴルの食事に挑戦

今回渡航したのは、伊豆の国市長、市議会議長をはじめとする公式訪問団9人と、市内中学生らの中学生交流団29人の計38人。

公式訪問団は、ソングノハイルハン区長の表敬訪問や区の各種施設の視察などを行い、中学生交流団はナイラムダル国際子どもセンターに滞在し、世界各国から集まった子どもたちと、異文化交流を深めました。最後に合流した一行は日本大使館や日本人死亡者慰霊碑を視察しました。



大草原で乗馬体験



新国際交流員アノンさんも通訳で同行

協働まちづくり課
☎ 055-948-1412



日本人死亡者慰霊碑を視察



山下市長とソングノハイルハン区長ら



つるし飾り籠をプレゼント

